令和８年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第十四中学校

校長　　渡邊　英晴

１　学校教育目標

○進んで学ぶ人　○礼儀正しい人　○やりとげる人

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○一人一人の良さや可能性を認め合い、誰もが居場所を実感できる学校 ○教職員が専門性を発揮し、組織として一貫した指導を行う信頼される学校 ○地域や保護者と目標を共有し、共に生徒を育てる地域と共にある学校
○児童・生徒像	○自ら課題を見つけ、主体的に学び続ける生徒 ○多様な価値観を尊重し、感謝の心と正しい礼儀を持って他者と接する生徒 ○失敗を恐れずに挑戦し、目標達成まで粘り強く努力を継続する生徒
○教師像	○生徒一人一人に深い愛情と情熱を持って寄り添い、その成長を第一に考える教師 ○教育のプロフェッショナルとして、常に研鑽を積み、挑戦し続ける教師 ○教育公務員としての高い倫理観と使命感を持ち、公平・公正で誠実な職務を遂行する教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

本校生徒は落ち着いた環境で学校生活を送り、学校へ行くのが楽しいと答えた肯定的回答は 93%に達している。学校行事に対しても 93%が意欲的に取り組むなど活気があり、行事を通じた集団の絆と自己有用感の醸成が見られる。学習面では「主体的・対話的で深い学び」を重視し、94%の生徒が自分で考え、仲間と協力して課題を解決している。授業が楽しいと感じる生徒は 85%に及び、教員相互の授業観察や協議会を通じた授業改善が着実な成果を上げている。小中連携を年間７回実施し、相互の研究授業を通じて学習者中心の授業を実践することで、９年間の学びの連続性を確保していることも成果として出ているのではないかと考える。学力面では、１学年及び３学年において全教科で区平均を上回る結果を残し、日頃のきめ細かな指導の成果が顕著に表れた。ＩＣＴ活用も進展し、特に３学年の 94%が「考えを深めるために有効である」と学習効果を強く実感している状況にある。

一方で、２学年の区調査結果が全教科で区平均を下回ったことは喫緊の課題であり、学習意欲を喚起する指導の工夫を要する。２学年は授業を楽しいと感じる割合が 79%と他学年に比べ低く、中だるみの解消に向けた重点的な支援が不可欠である。教員アンケートでは、主体的な学びの実践に約２割が課題を感じており、校内でのノウハウ共有による全体の底上げが求められる。タブレット端末を活用した課題提供や家庭学習の推進においても、教員の約 26%が指導の均質化に課題を抱えている現状が浮き彫りになった。今後はデータに基づいた授業改善をさらに深化させ、ＩＣＴを効果的に活用した個別最適な学びの実現を全学年で加速させていく。

また、今年度コミュニティ・スクールとしての機能を最大限に活用し、地域や保護者の専門性を教育活動に取り入れる仕組みを整える。具体的には租税教室や公開講座等の外部人材による教育機会を拡充し、社会との繋がりを意識した実践的な学びの充実を図る。小中連携の成果を基盤としつつ、地域と協働して生徒の社会的な視野を広げることで、学校教育全体の質を一段と高めていく。 落ち着いた生活態度と高い行事意欲を学習の質的向上へつなげ、全ての生徒が自己の成長を実感できる環境づくりを推進する。以上の成果と課題を令和８年度計画に反映し、地域から信頼され、生徒一人ひとりが輝く持続可能な学校経営を力強く進めていく。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R：令和				
		R６	R７	R８	R９	R１０
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実	○	○	○		
3	心の教育の充実と組織的な対応	○	○	○		
4	コミュニティ・スクールとして、地域・保護者との協働による生徒の育成			○		

５　令和８年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎学力の確実な定着と授業力向上	到達度確認テスト正答率　65% 令和８年度区調査通過率　65%	**自己評価の際に記入**		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全教員 全教科	通年	○「足立スタンダード虎の巻」を指針に個別最適・協働的な学びを充実させ、生徒中心の学びの推進 ○自己申告時の授業観察 ○年３回の教員相互による授業観察期間と協議会の実施 ○小中連携による研究授業公開と協議会及び研修会（年７回）の実施	○管理職による授業観察シート ○実施後の教員ｱﾝｹｰﾄ ○各教科議事録共有と実施後教員ｱﾝｹｰﾄ	○実施教員100% ○生徒評価「授業が楽しい」90%以上 ○教員評価「実施後、授業改善に活かした」90%以上 ○教員評価「小中連携における肯定的意見80%以上	**自己評価の際に記入**		

2 継続・新規	ＩＣＴ機器を活用した授業改善	全教員 全教科	通年	○足立区教育ＤＸプランに基づき、週３回以上タブレット端末の生徒使用 ○デジタル教材を活用した授業実践 ○Canva、スライドなどのGoogle Workspaceを使用した授業実践	○管理職による授業観察と自己申告面接 ○生徒ｱﾝｹｰﾄ ○教員ｱﾝｹｰﾄ	○生徒評価「生徒が調べる場面での活用」100% 「自分の考えをまとめ発表する場面」「教員と生徒、生徒同士のやりとり場面」「生徒が特性や理解度に合わせて課題に取り組む場面」それぞれ80%以上 ○教員評価「授業にタブレット端末を週３回以上活用」80%以上	**自己評価の際に記入**
3 新規	サマースクール 数学特訓	・１年生 数・英基礎未定着者 ・希望者	夏季休業中 ７日間	○全教員 ○自作プリント、ＡＩドリル 勉強合宿テキスト	○国・数・英必須 ○社・理希望者	○７日間完全実施	
4 新規	図書館利活用推進	全教員 全教科	通年	○学習センター機能 ○読解力向上	○生徒ｱﾝｹｰﾄ ○教員ｱﾝｹｰﾄ	○図書館利活用授業100時間 ○年間３冊以上読書80%以上	

重点的な取組事項－２	キャリア教育の充実

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の成長を客観的に捉え、主体的に目標設定ができる生徒の育成	生徒アンケートにおいて 該当項目の肯定的回答 80%	自己評価の際に記入		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
キャリア教育と自己実現	○「将来の夢や目標をもてた」 １年 70%, ２年 80% ３年 90% ○キャリア教育アンケート全項目平均以上	○自己理解を深めるため、３年間を見通した系統的な指導（１年：職業調べ２年：職場体験学習３年：上級学校調べ） ○外部講師等を招き、将来の生き方を考え自ら進路を選択できる能力の育成	自己評価の際に記入		
特別活動の充実	○「自分がやるべきことはやりたくないときでも、きちんとやりとげることができる」80%以上	○学級活動 夢デザイン・シートを用いた自己評価と次なる目標設定の連動 ○学校行事 課題解決能力と集団における自己の役割自覚の育成 ○生徒会活動 校則見直しを通じた主権者意識の育成			

重点的な取組事項－３	心の教育の充実と組織的な対応

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな人間性と自他を大切にする心の育成	不登校生徒の減少（５％未満） 外部と繋がりをもたない生徒　０	**自己評価の際に記入**		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	○「ＳＮＳを含め学校生活のルールを守っている」「基本的生活習慣が身についた」肯定的回答 90%以上	○セーフティ教室を軸とした情報モラル教育の徹底 ○「かきみそあじ」の徹底 ○生徒理解を基盤とする生徒指導の実践	**自己評価の際に記入**		
人権意識の育成といじめ防止対策の推進	○「自分自身や自分の周りで、いじめはなかった」の肯定的回答 90%以上	○輪番制による「考え、議論する」道徳授業を軸とした人権教育の実施 ○生徒会による「いじめ撲滅運動」の実施			
不登校生徒・登校渋り生徒への対応	○不登校生徒の減少（５％未満） ○引き籠もり生徒０ 外部と繋がりを持たない生徒０	○ＳＣ，ＳＳＷの有効活用 ○校内特別支援委員会（週１回）の実施 ○教育相談コーディネーターと特別支援委員会によるケース会議の実施 ○関係諸機関との連携			
特別支援教育の推進	「思いやりをもって友人と接した」と「自分の考えを安心して発言できた」の肯定的回答 90%以上	○ＷＥＢＱＵ（年２回）実施と学年分析２回実施とグループエンカウンター等の実施 ○ユニバーサルデザインの視点での教育活動推進			

重点的な取組事項－４	地域・保護者との協働による生徒の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・他者受容の育成	「自分の活動・頑張っていることを、周囲の仲間や大人に認められていると感じる」の肯定的回答 85%	**自己評価の際に記入**		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
関係諸団体と連携したボランティア活動の機会充実によるボランティアマインドの育成	○ボランティアに参加したことがある生徒数の前年度増	○地元町会、自治会におけるボランティア活動	**自己評価の際に記入**		
開かれた学校づくりとの体験活動と交流	○「桜樟祭」「地域清掃」「花いっぱい運動」の継続実施 ○ボランティア参加人数の増加 ○年１回開かれた学校づくり協議会との意見交換会	○「桜樟祭」「地域清掃」「花いっぱい運動」へのボランティア参加 ○生徒、教員との意見交換会の実施			
外部人材の活用	○外部人材による出前講座の継続実施	○外部講師による租税教室、公開講座等の実施			

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

（２）保護者や地域へのメッセージ

（３）その他（学校教育活動全般について）